

口腔乾燥症の性差要因の検証と バイオマーカーの特定



発症率に男女差がある、あるいは発症率が同程度でも病態の経過に男女で違いが見られる疾患について、内分泌環境の変動に着目した発症機構や病態の解明は、より適切で有効な治療提案や、個別化医療・精密医療の実現につながる可能性がある。口腔乾燥症は唾液分泌量が減少して口腔の乾燥に悩まされるとともに、多数歯う蝕、歯周疾患の誘発、会話困難や口腔粘膜疾患などの原因となる。損傷を受けた唾液腺の再生は起こりにくく、発症後の患者の QOL を著しく低下させる。本疾患は更年期以降の女性で発症率が高く、病因のひとつに女性ホルモンの減少にともなう唾液腺の機能不全誘発が予想されている。本セミナーでは、唾液腺機能調節の分子機構の解明を、糖鎖科学の視点からアプローチした研究成果について紹介する。

相川 京子（理学部 化学科 教授）

お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系 教授

お茶の水女子大学ヒューマンライフサイエンス研究所 糖鎖科学・創薬化学部門長

日本生化学会 代議員、日本糖質学会 評議員

糖タンパク質糖鎖修飾の生理的意義や病態との関連の解明を目指して、生化学、遺伝子工学、細胞生物学等の手法で研究を行っている。

日時：2026年 **7月22日**（水）
9:30-10:30

対象：本学の学生・教職員

※お茶大のメールアドレスをお持ちの方

開催方式：オンライン方式
（Zoom ミーティング）

要申込



締切 **7月21日**（火）
12:00 まで